



報道関係者各位

株式会社東急Re・デザイン

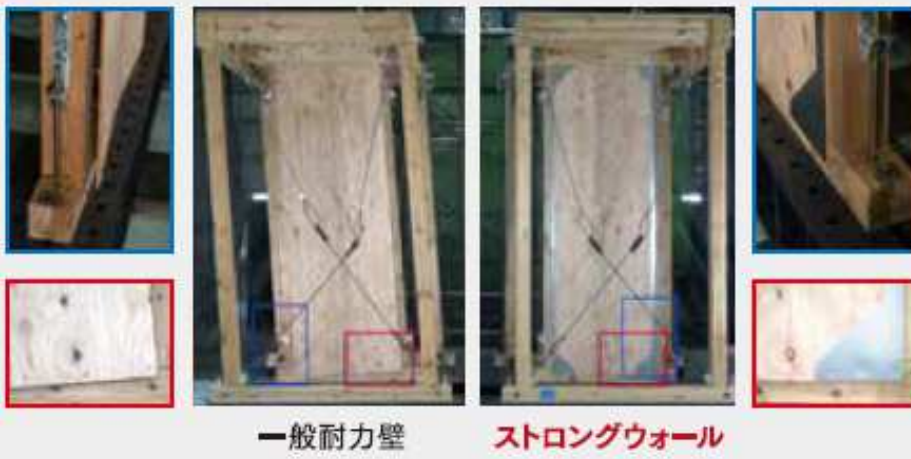
戸建まるごとリフォームへの画期的な提案

一般耐力壁の約2倍の強さ オリジナル耐力壁「STRONG WALL」を開発

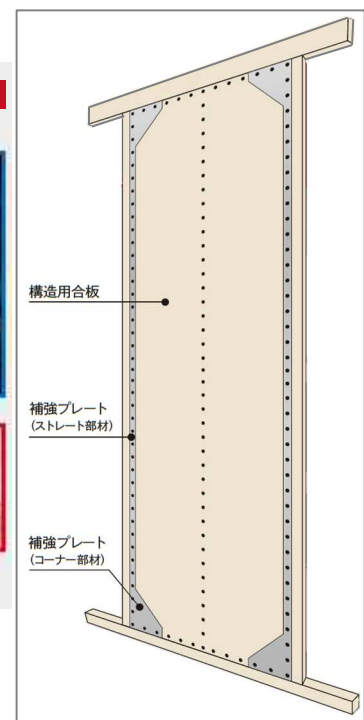
大地震でも住み続けられる住宅への再生

株式会社東急Re・デザイン（本社：東京都世田谷区 代表取締役社長：細田 正典）は、戸建住宅のオリジナル耐力壁を開発及び、採用し、定価制リフォームの標準仕様として販売を開始しますのでお知らせいたします。

実大振動台実験(JMA神戸波×100% 震度6強) 加振2回目



一般的な釘ピッチ@150mmの建築基準法に準拠した「一般耐力壁」と、Re・デザインのストロングウォールとの比較(動画は右記 QR コードより)



建築基準法では、最低限「命を守る」事を優先し、震度6強の地震では倒壊しないことを目標としてきましたが、熊本地震では想定外の「繰り返しの大地震」が発生し、現行耐震基準（2000年改正）の住宅にも被害が及びました。

これまでも耐震に力を入れてきた当社としては、今まで以上にその必要性を感じ、今回のオリジナル耐力壁「STRONG WALL」の開発に至りました。

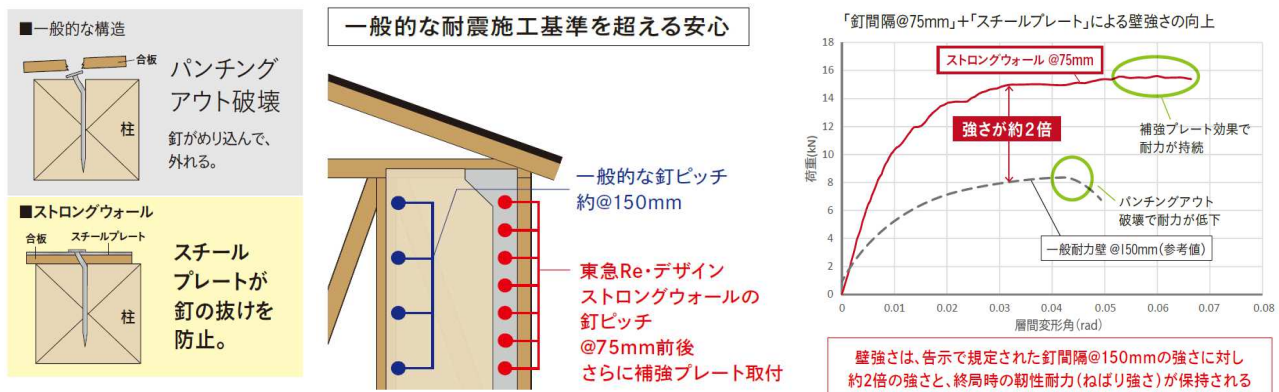
■東急Re・デザインの戸建まるごとリフォーム

東急Re・デザインの「住まいまるごと再生システム」は、震度6強の地震では、一応倒壊しないとされる耐震評点1.0（建築基準法耐力相当）以上を確保しています。今回開発したオリジナル耐力壁の外周部への使用を標準化*することで、新築の耐震等級2相当にあたる「耐震評点1.25」を実現し、繰り返しの大地震や、今後発生するといわれている首都圏直下型地震でも、住み続けられる住宅へと再生します。※外壁改造工事を伴う等の設置基準があります

■「Re・デザインのSTRONG WALL」の特徴

建物の耐震性能で大きな役割を果たす「面材耐力壁」が、その性能を発揮するためには、面材を固定する釘が終局まで柱に繋がっている事が重要です。しかし近年の針葉樹合板では、釘が面材にめり込み、終局時に「パンチングアウト破壊」が生じ、終局耐力・靱性が大きく低下する傾向にあると言われています。

そこで、構造用合板の表面にスチールプレートを設け、繰り返しの揺れから生じるパンチングアウト破壊を防止。一般的な釘間隔 150mm に対し 75mm の施工にて耐力向上。更に釘ピッチマーキングされたスチールプレートを採用することで施工精度を向上し、一般耐力壁の約 2 倍の性能を発揮します。当社はこの度、このオリジナル耐力壁を一般財団法人日本建築防災協会に出願し、技術評価を取得いたしました。



■販売商品名 定価制リフォーム 住まいまるごと再生システム「リノベーションパック」

■販売開始日 1月16日

東急Re・デザインの戸建まるごとリフォームは、芯から強く、長く住める家を目指し、「人命を守る」ことはもとより、繰り返しの大地震の後にも「住み続けられる」ことを重要と考え、これからも耐震改修にこだわり続けてまいります。

■ 東急不動産ホールディングスグループの一員として取り組む SDGs

東急不動産ホールディングスグループは 2015 年に国連サミットで採択された 2030 年までの「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。持続可能な世界を実現するための 17 の目標のうち、当グループが取り組む項目を定め、SDGs を起点に持続可能な社会と成長をめざします。本件においては、住宅のリフォームにおいて、より耐震性が高く住み続けられる住宅を実現することからゴール 11「住み続けられるまちづくり」、倒壊防止により家屋の廃棄物を削減することからゴール 12「つくる責任、つかう責任」の達成に寄与するものと考えます。

